



## F コマンド

---

この章では、F で始まる Cisco NX-OS インターフェイス コマンドについて説明します。

# feature lacp

Link Aggregation Control Protocol (LACP) をイネーブルにするには、**feature lacp** コマンドを使用します。LACP は、複数の物理ポートをまとめて単一の論理チャネルを作成します。スイッチで LACP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature lacp**

**no feature lacp**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

LACP はディセーブルです。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

LACP をディセーブルにするには、スイッチのすべてのポート チャネルからすべての LACP コンフィギュレーション パラメータを削除する必要があります。

グローバルに LACP をイネーブルにした後でも、スイッチのすべてのポート チャネルで LACP を実行する必要はありません。各チャネル モードで LACP をイネーブルにするには、**channel-group mode** コマンドを使用します。

## 例

次に、スイッチで LACP ポート チャネルをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature lacp
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show lacp</b>	LACP に関する情報を表示します。
<b>show feature</b>	LACP がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

# feature lldp

ネットワーク デバイスがネットワーク上の他のデバイスに自分の情報をアドバタイズするために使用するネイバー探索プロトコルであるリンク層検出プロトコル (LLDP) は、スイッチにおいてデフォルトでイネーブルです。

コマンドデフォルト イネーブル

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	4.0(0)N1(1a)	この機能が導入されました。

## 使用上のガイドライン

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチ上では、LLDP をイネーブルまたはディセーブルにできません。LLDP はスイッチではデフォルトでイネーブルです。ただし、**feature lldp** コマンドは、次のようにスイッチの実行コンフィギュレーションの一部として表示されます。

```
switch# show running-config

!Command: show running-config
!Time: Tue Feb 10 12:36:03 2009

version 5.0(3)N1(1)
feature telnet
feature lldp

username admin password 5 $1$d81kfqc8$4VfRu0oZTKvCtTq8VAKbq/ role network-admin
no password strength-check
ip domain-lookup
hostname switch
class-map type qos class-fcoe
class-map type qos match-all c1
  match cos 1
<--Output truncated-->
switch#
```

Cisco Discovery Protocol (CDP) は、すべてのシスコ製デバイス（ルータ、ブリッジ、アクセス サーバ、およびスイッチ）のレイヤ 2（データ リンク層）上で動作するデバイス検出プロトコルです。ネットワーク管理アプリケーションは CDP を使用することにより、ネットワーク接続されている他のシスコ デバイスを自動的に検出し、識別できます。

スイッチでは他社製のデバイスをサポートし他のデバイス間の相互運用性を確保するために、リンク層検出プロトコル (LLDP) をサポートしています。LLDP は、ネットワーク デバイスがネットワーク上の他のデバイスに自分の情報をアドバタイズするために使用するネイバー探索プロトコルです。このプロトコルはデータリンク層で動作するため、異なるネットワーク層プロトコルが稼働する 2 つのシステムで互いの情報を学習できます。

関連コマンド	コマンド	説明
	lldp	スイッチにグローバル LLDP オプションを設定します。
	lldp (インターフェイス)	インターフェイスに LLDP 機能を設定します。
	show feature	スイッチで LLDP がイネーブルになっていることを表示します。

# feature port-security

レイヤ 2 インターフェイスでポート セキュリティをイネーブルにするには、**feature port-security** コマンドを使用します。ポート セキュリティをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature port-security**

**no feature port-security**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

ディセーブル

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ポートにアクセスできるスイッチの MAC アドレスを制限および識別することによってポートを保護するには、ポート セキュリティ機能を使用します。

次の状態が発生した時にだけ、仮想ポート チャネル (vPC) ポートでポート セキュリティをイネーブルにすることができます。

- ポート セキュリティが両方の vPC ピアでイネーブルになっている。
- ポート セキュリティが、両方の vPC ピアの vPC ポートでイネーブルになっている。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、スイッチ上でポート セキュリティをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature port-security
switch(config)#
```

次に、スイッチ上でポート セキュリティをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no feature port-security
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show feature</b>	スイッチ上でイネーブルまたはディセーブルになっている機能を表示します。

コマンド	説明
<b>show port-security</b>	ポートセキュリティのコンフィギュレーション情報を表示します。
<b>switchport port-security</b>	ポートセキュリティを確立するようにスイッチポートパラメータを設定します。

# feature uddl

シスコ独自の単方向リンク検出 (UDLD) プロトコルをイネーブルにするには、**feature uddl** コマンドを使用します。UDLD をイネーブルにすると、光ファイバまたは銅線イーサネット ケーブルを介して接続されているポート上で、ケーブルの物理設定をモニタし、単方向リンクの存在を検出できます。スイッチで UDLD をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature uddl**

**no feature uddl**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

UDLD はディセーブルです。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
4.0(1a)NI(1)	このコマンドが追加されました。

## 例

次に、スイッチの UDLD をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature uddl
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show uddl</b>	管理上および運用上の UDLD ステータスを表示します。
<b>show feature</b>	UDLD がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。